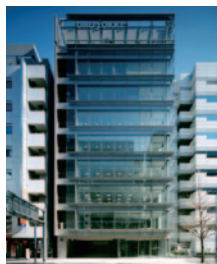


新本社ビルの建設を機に次世代を担える シスコ ユニファイド コミュニケーションの導入を決断 ネットワークとコミュニケーションを融合させて 顧客対応力と業務効率の向上を目指す



ONOSOKKI

株式会社小野測器

<http://www.onosokki.co.jp/>

電子測定機器、電子応用機器、電子制御装置の製造、販売ほか
従業員数:420名

導入ソリューション

シスコ ユニファイド コミュニケーション

検疫ソリューション (NAC アプライアンス)

ワイヤレス LAN (ワイヤレス IP フォン)

計測、制御、解析の分野で世界屈指の技術を誇り、優れた機器を開発している小野測器は、新しい本社ビルの建設に伴い、ネットワークを含めた ICT インフラを刷新。「新しい世代に対応できる、先進的なソリューション」を導入したいと考えた同社は、シスコのユニファイドコミュニケーションを選択した。

導入前の課題、検討事案

- ・新しい世代に対応できる ICT インフラを整備したい
- ・拠点間のコミュニケーション ロスをなくしたい
- ・本社、開発拠点と地方営業とのコミュニケーションを改善したい
- ・請負業者の持ち込み PC など、セキュリティへの対策を強化したい

導入効果

- ・ネットワークも刷新し、音声と統合した「きれいなインフラ」を実現
- ・検疫ソリューションにより、持ち込み PC などへのセキュリティを向上
- ・営業支援システムとの連携性、今後の拡張性が向上

1 導入のきっかけ—— 新本社ビルの建設を好機と捉え、 先進的な ICT インフラへ刷新

多様なニーズに応える電子測定機器や電子制御装置の製造販売を手がけている小野測器は、2009 年初頭に新本社ビルを建設し、本社機能とソフトウェア開発拠点を移転させた。これを好機として捉え、ICT インフラの刷新を進めることにした同社は、複数のソリューションを比較検討した結果、シスコのユニファイドコミュニケーションを選んだ。

2 シスコを選んだ理由—— シスコの高い技術力と先進性、 販売パートナーの対応力を評価

今回、シスコを選んだ理由としては、

- ・ネットワークとコミュニケーションの統合が非常に高いレベルで実現できること
- ・デモを通じてシスコの高い技術力とソリューションの先進性を実感できたこと
- ・販売パートナーのインテグレーション力、

対応力が優れていると確認できたことなどが挙げられる。

3 導入プロセス—— 極めて短納期ながら、 販売パートナーの尽力を得て 作業を完了

社内での検討に時間を要したこと、新しいビルの完成と移転のスケジュールが決まっていたことから実質的に約 1 ヶ月ほどという短期間での構築、導入となった。未経験の領域で戸惑いもあったが、販売パートナーの尽力もあり、無事に作業を完了させることができた。

4 導入効果—— 通話の音質、接続性など 電話として十分な機能を維持

- ・システムは順調に立ち上がり、通話の音質もクリアで満足している。

5 今後の展開—— 多拠点への展開を経て、 各種機能の活用や ソリューション連携を充実させたい

- ・主にハードウェアの開発拠点であるテクニカルセンターをはじめ、各拠点への導入を進めて、インフラ刷新の効果をより発揮させていきたい。
- ・電話会議やボイス メールなど各種機能の活用、営業支援システムとの緊密な連携などを進め、業務の効率化を促進させたい。



導入の経緯

新本社ビルの建設をきっかけに、社長の決断で「新しい世代に対応できる」インフラへ

1954年の設立以来デジタル技術にこだわり続け、多様なニーズに応える測定機器や制御装置などの製造販売によって、自動車、鉄鋼、機械など各業界から高い評価を得ている小野測器は、2009年初頭に新しい本社ビルを建設した。これをいい機会と捉えて、ネットワークを含めた社内ICTインフラ刷新を考えた同社は、複数のソリューションを比較検討し、最終的にシスコのユニファイドコミュニケーションを選択した。情報サービス室長 工学博士の大橋正尚氏は、導入の経緯を次のように話す。

「弊社の社長は、以前から ICT インフラを新しい世代に対応できるものにしたいと話してはいて、せっかく本社ビルを新しくするのだから、今までとは違うものを検討してみようということになったのが始まりです。ネットワークと音声系を全部統合して、きれいなインフラにしたいと考えました。

新しいビルは、ソフトウェア開発の拠点という機能も果たします。ネットワークを刷新することで、地方に展開している営業スタッフとの連携を改善したいという狙いもありました」

それまで PBX ベースの、いわゆるレガシーな電話システムを運用していた同社にとって、ネットワークと統合されるフル IP ベースの電話システムへの移行を決めるまでには、さまざまな議論があったという。

最終的には、「新しいことに挑戦しよう」という社長の判断が、全体の方向性を決めたと大橋氏は話す。

「安心、安定という

点で、レガシーなシステムを推す意見は多くありましたが、将来性が損なわれるという懸念もあり、盛んに議論が行われました。これほど大

規模に新システムを導入できるタイミングはそうそうないので、ここで決断しなければ、ということでシスコを選びました」

選定段階では各社にデモなどを見せてもらったとのこと。そこで、シスコの技術力の高さやユニファイド コミュニケーションの優れた点を改めて実感することができたと、情報サービス室 係長の齋田直己氏は話す。

「実際にデモを拝見して、ネットワークとコミュニケーションの統合がとてスムーズだと感じましたし、他社には真似のできないところが数多くあるとわかりました。弊社の会議室からインターネットを使ってシスコさんのオフィスにつなげてもらい、ビデオ会議や資料共有によるコミュニケーションなど実際の活用シーンも見ていただきましたが、あれは非常にインパクトが強かったです。

今回はそこまでのシステムを入れていませんが、将来の布石として、こういうことができるようになるとわかったのは大きな収穫でした」

また大橋氏は、最終的にシスコを選択した理由のひとつとして、システム構築を担当した販売パートナーの実績を挙げる。同社と長く付き合いのある取引先へ IP 電話システムを導入した事例をはじめ、「しっかりした技術力とサポート力があることを事前に確認できたのは大きなポイントでした」と言う。



株式会社小野測器
情報サービス室
係長
齋田直己 様

株式会社小野測器
情報サービス室長
工学博士
大橋正尚 様



導入プロセス

検疫ネットワークとワイヤレス LAN も同時導入。極めて短納期ながら販売パートナーの尽力も得て完了

今回のインフラ刷新にあたって、同社は検疫ソリューション（NAC アプライアンス）も導入している。新本社ビルの 1 フロアを外部スタッフや請負業者専用のワークスペースにしておき、持ち込み PC などに対するセキュリティの強化は重要だったと大橋氏は話す。

「弊社は各業界大手の皆様と取引させていただいていますので、会社として信頼性を高めるための取り組みは欠かせません。いい機会だったので、入れられるものは全部入れてしまおうと思いついて取り組みました」

導入したソリューションは、ユニファイド コミュニケーション、検疫、ワイヤレス LAN（ワイヤレス IP フォン）と多数に上るが、納期の面ではかなり厳しい状況になったという。社内での検討に時間がかかった

一方で、新本社ビルの完成と移転のスケジュールは決まっていたことから、実質 1 ヶ月程度でシステムの設計から導入までのプロセスが進められた。

情報サービス室 シニア IT エキスパートの福井潤市氏は、導入にあたっての取り組みを次のように話す。

「ネットワークと音声統合したシステムは初めてでしたが、販売パー



株式会社小野測器
情報サービス室
シニア IT エキスパート
福井潤市 様

トナーにも尽力いただき、間に合わせることができました。一部の機能は段階的にスタートさせることになりましたが、大きな問題は起こって

おらず、思っていたよりも非常に順調な立ち上がりです」

**導入効果～
今後の展開**

**音質、機能は十分と判断。
多拠点展開、営業支援システムとの連携で本領を発揮させたい**

新システムを稼働させてから半年ほどということもあり、今のところは通常の電話としての利用が多くを占めている。音質は十分クリアで、満足しているという。電話会議やボイスメールなどの機能は、今後ユニファイド コミュニケーションを各拠点にも導入していくに伴って、活用が進むだろうと大橋氏は言う。

今回のインフラ刷新と同じくして、営業支援系のシステムも SaaS 型のサービスを用いた新しいものに移行しており、相互の連携をより強めることを検討している。情報サービス室 係長の鈴木茂樹氏は、システムの移行を踏まえて次のように話す。

「担当者個人に依存していた顧客データを共有して、もっと有効な活用を進めたいということと、今まで使ってきたシステムの老朽化を受けてシステムを更新しました。ユニファイド コミュニケーションとの本格的な連携はこれからですが、既存のデータに情報をどんどん追加していきながら、新しいシステムを育てていければと思います」

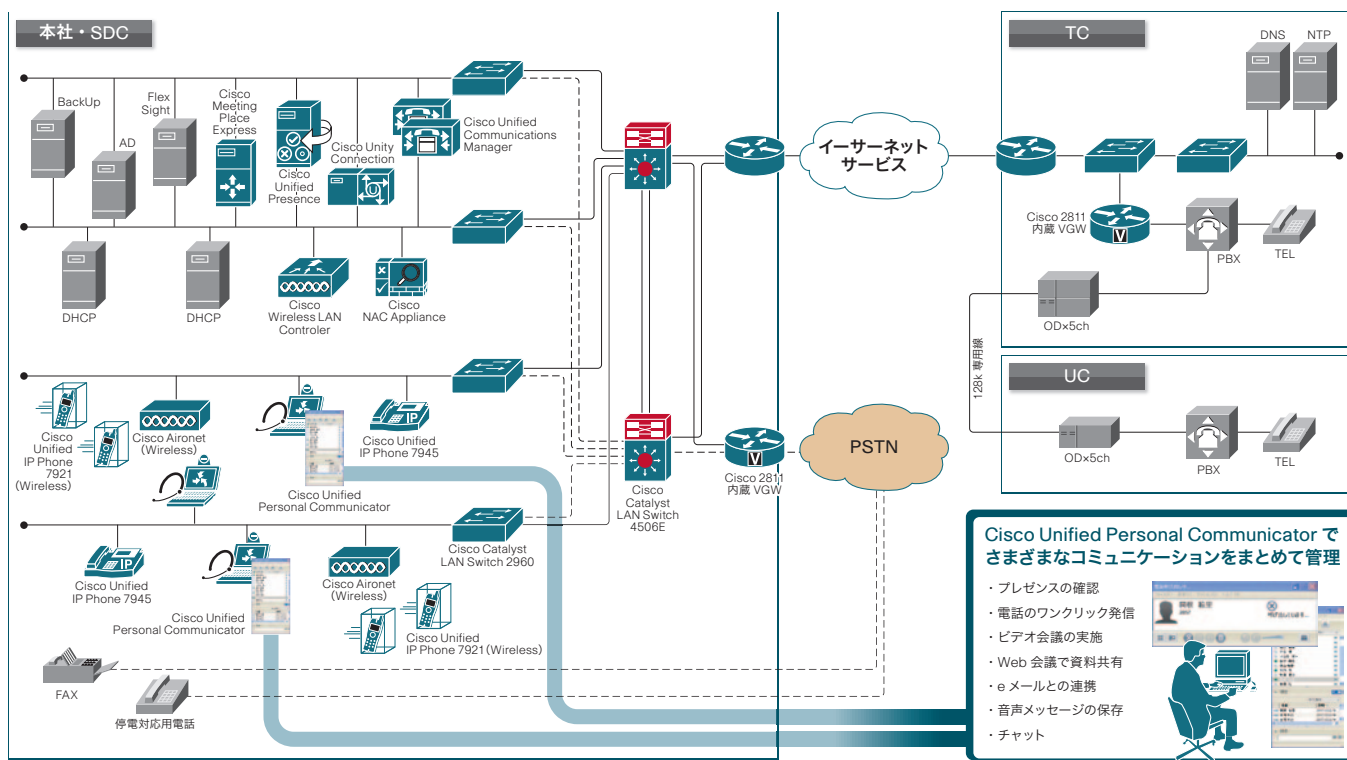
同社では ICT インフラの運用管理を外部に頼らず、自社で行うことを基本としている。今回導入したソリューションについても、販売パートナーと共に運用マニュアルなどを作成して、対応を進めているという。ICT を活用して業務を効率化するという考え方は昔から一貫して

おり、「業界の中でも、これだけ先進的な取り組みを行っているのは珍しいかもしれません」と福井氏は話す。

最後に大橋氏は、各拠点への導入や、システムの活用など、今後の展開と期待を語ってくれた。「ひとつの成果物を生み出すには、ソフトウェアとハードウェアの融合は非常に重要です。新本社ビルにソフトウェア開発センターをまとめたことで、主にハードウェアの開発を行っているテクニカルセンターと拠点が分かれることになりましたが、向こうにも同じシステムを導入して相互のコミュニケーションがより活性化してくると、ネットワークを含めてインフラを刷新した効果ははっきり現れてくると思います。ワイヤレス IP フォンのモバイル活用、Cisco Unified Personal Communicator によるプレゼンスの確認から電話のワンクリック発信、さらにビデオ会議や資料共有といった各種機能の利用も含めて、システムの本領が発揮されるようになるでしょう」



株式会社小野測器
情報サービス室
係長
鈴木 茂樹 様



会社概要

株式会社小野測器

所在地：神奈川県横浜市北区新横浜 3-9-3

設立：1954年1月

資本金：71億3,420万円

従業員数：414名（2009年3月現在）

デジタル信号処理、デジタル制御の技術において世界屈指の水準を誇り、高度化、複雑化する測定や制御のニーズに応える各種機器やソフトウェアの開発・製造・販売を手がける。顧客の視点に立って、新たな価値を創造する「ものづくり」にこだわり、最高の品質とサービスを実現することで、社会に貢献し、また顧客に安心、安全、満足を提供し続けている。国内ほぼすべての自動車／二輪車メーカーと取引があるなど、計測制御解析分野において確固たる地位を築いており、その優れた技術と製品は、自動車、鉄鋼、化学、機械、電気・電子などさまざまな業界で高く評価されている。

先進的なオフィスで新しい働き方を実現して優秀な人材を確保すること、交通のアクセスが良い立地にオフィスを設けて顧客とのコミュニケーションを図りやすくすることを踏まえて、新横浜駅前に新しい本社ビルを建設し、2009年2月に本社機能とソフトウェア開発センターを移転した。本社を含め3ヶ所の事業所と、全国14カ所の営業拠点を有する。

©2009 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco, Cisco Systems, および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。

本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2009年7月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255 (フリーコール、携帯電話・PHS含む)

電話受付時間：平日10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

お問い合わせ先